

平成31年度(令和元年度)自己評価表

【中長期目標(学校ビジョン)】

岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。

【今年度の重点目標】

- 1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。
- 2 部活動を推進し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。
- 3 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。
- 4 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。
- 5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。

	具体的項目	平成31年度当初			評価結果(10月)		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 7年連続して進路実現100%。そのうち第1志望での合格・内定率は95%を超えた。 2年生の1月末時点での進路希望未決定者は約5%であった。 より高い進路実現を目指す。 就職後1年以内の離職率が県平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現100%。 第一志望合格内定90%以上。 2年生1月末時点での進路希望未決定者が5%未満。 就職後1年以内の離職率を県平均に近づける。 	<ul style="list-style-type: none"> 系列選択、科目選択、進路選択等の場面におけるガイダンス機能の充実。 日ごろの面談の充実。 全教職員で全生徒を指導する意識の共有。 定着指導の徹底。 高い目標を掲げさせ、就職活動に主体的、積極的に取り組ませる指導の徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生就職希望者を対象に校内事業所説明会を5回実施し、合計10の事業所の会社概要、事業内容を生徒に紹介した。生徒の進路選択の一助となった。 5~6月にかけて、卒業生の勤めている各事業所を積極的に訪問し、卒業生の現状把握および面談を実施した。平成30年3月卒業生の1年以内離職率は18.8%と前年の35.3%から大幅減。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生の進路希望調査に向けて学年団と連携して必要な指導を行う。 3年生の進路決定状況の把握に注力し、必要な手立てを適時に行う。 定着指導を継続して行う。
2	心身のバランスのとれた人間の育成	<ul style="list-style-type: none"> 部活動全員加入を原則としており、未加入者は0名。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員加入の継続。 部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動指導計画に基づいた適切な運営をとおり、技術向上のみならず人間的な成長を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動未加入者は1年生1名であるが、積極的に部活動に参加してない生徒もいるようである。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 顧問の先生と連携を取り、指導をしていく。
	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪服装再検査者数は、月によってまちまちではあるが、クラス平均5人以内は達成できていない。頭髪については軽微な違反がほとんどであり、細かく指導していただいた結果と受け止めている。 学校評価アンケートにおいて、生徒は約9割の生徒が挨拶を心掛けていると回答しているが、職員は生徒が挨拶や返事、日常生活のマナーが守られていると回答したのは約7割と捉えに開きがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪服装指導において再検査を受けなければならない生徒の減少。 挨拶、返事、頭髪服装等の基本的な生活態度が良好な状態が維持され、生徒の肯定的自己評価が90%以上、職員の肯定的評価が75%以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な指導と定期的な全体指導の充実。 指導ノートの有効活用。 生徒・保護者ファーストな姿勢による指導。 家庭との適時な連携。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪服装検査で再検査となる生徒数は変わらない。ただ、ほとんどが軽微な違反であり、各学年で細かく指導をしていただいた結果である。 学校評価アンケート(7月)の生徒の回答をみると、挨拶や返事については意識が低下しているが、頭髪服装や日常生活のマナーの意識は高まっている。 生活満足度アンケート(5月)の結果睡眠不足を感じている割合が40.6%で、それらの生徒の理由は夜更かし50%、なかなか眠れない40.8%、メール・ライン20.8%である。そのため朝食を「食べない日が多い」「全くまたはほとんど食べない」生徒が13.4%で、理由は食欲がない60.0%、時間がない32.0%など健康状況、生活状況に繋がっている。 養護担当から体調管理面で気になる生徒に個別の指導を実施。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、妥協せず細かく指導をしていきたい。 様々な場面で挨拶が出来るよう、授業・部活動等すべての生徒の活動を通して指導していく。 健康観察、養護担当からの個別の指導を継続。
	豊かな人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> SNSを通じた人間関係のトラブルが存在。 周囲への配慮に欠けた言動をとる生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSの適切な利用、携帯電話等のマナーが定着。 周囲に配慮した言動ができる。 生徒にとって学校が安心して安全な場所である。 	<ul style="list-style-type: none"> ケータイ・インターネットマナー研修会等の指導を継続して実施。 生徒の小さな変化を見逃さず早期に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(7月)の結果をみると、ここ数年に比べてケータイ・スマートフォンのルール・マナーや依存に対する意識は生徒保護者ともに高まっている。 生徒のほとんど(97.8%)が携帯・スマートフォンに関するトラブルが起きないように、ルール・マナーを守っている。また、約95%の生徒が携帯・スマートフォンに頼りすぎず、相手と直接話すことを大切にしている。しかし、保護者の約20%が子どもは使用マナーを守っていないと感じているので、意識の差が見受けられる。 学年を中心に細かく指導してもらっている。 	D	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会・学年集会・HR等、あらゆる機会を通じて、ケータイ・スマートフォンの扱い方や、SNSの危険性について啓発活動を行っていく。 携帯・スマートフォンについて、トラブルに巻き込まれないよう注意喚起を継続しながら、家庭での使い方を含め使用ルール・マナーの指導に当たる。 生徒の抱えている背景を理解し、日常的な観察や各種アンケートの結果等を生かして、生徒の変化を敏感にキャッチする。特に気になる生徒は担任、教科担任、SC、さらに保護者と連携を取り、個別に生活改善を指導する。 授業管理の重要性を共有する。

	具体的項目	平成 31 年度当初			評価結果(10 月)		
		現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 主体的学びの支援	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着が不十分な生徒が多い。 教職員の中にイワッツ検定の見直しを求める意見が存在。 家庭での学習時間の平均は 69 分、学習時間 30 分未満の生徒は全体の 10%未満と、学習習慣はすこしずつ定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や学校での学習の分量に応じた家庭学習が継続して行われている。 保護者アンケートで「家庭学習が毎日 1 時間以上できている」に肯定的な意見が 40%以上。 1・2 年生の基礎力診断テストにおいて Dゾーンの生徒数が年度初めより 5%以上減少する。 	<ul style="list-style-type: none"> リスタート学習における適切な指導。 イワッツ検定の在り方を含め教育改革委員会を設置し今後の岩美高教育の在り方について検討する。 家庭学習が見込まれる課題の提示と、適切な評価の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科でリスタート学習の取り組みを行っている。学校評価アンケート(7月)では、生徒の基礎学力の向上感は約 79%と高いものの、実情としての定着状況は不十分である。 直近の家庭学習時間の平均は、平常時 86 分、考査期間 165 分であり、平常時が 30 分未満の生徒は 6%であった。前半においては昨年より大幅に増加した。なお、学校評価アンケート(7月)では「毎日 1 時間以上できている」に肯定的な保護者は 35%であった。 	D	<ul style="list-style-type: none"> 教育改革委員会でイワッツ検定に代わる基礎学力の向上策を検討する。 「家庭生活調査」の事後指導等を継続的に実施していく。
	学習指導の改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業やイワッツ検定をとおして学力がついたと感じる生徒が 77%。 評価アンケートにおいて生徒は「授業に集中しやすい環境」が 86%、「自分の意見や考えを発表する機会あり」が 85.5%、「授業のねらいと板書内容が明確」は 85.5%の肯定評価。「絵や写真等でわかりやすい」は中間評価より 1 割程増加し 75.4%となった。 保護者の 80.8%が「一人一人を大切にした指導やわかりやすい授業が行われている」と回答。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科に対する生徒の興味関心が年度当初より向上している。 授業に関する評価で肯定的な評価をする生徒が各項目とも 85%以上。 「一人一人を大切にした指導やわかりやすい授業が行われている」と回答する保護者が 80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT の活用、AL の実践などを通じた学習意欲の喚起。 授業参観の促進や授業研修会を充実し、校内の学習指導改善の体制作りを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすく、生徒が主体的に学ぶ授業の実施に向けて取り組んでいる。学校評価アンケート(7月)では生徒の授業に対する観点評価は何れもほとんどの項目で昨年度より上昇している。特に「絵や写真などが使われており、わかりやすい。」の設問の肯定的な評価が 10 ポイント以上上昇している。 夏季休業中に実施した授業研修会の参加率は 54%、職員の授業に対する項目の自己評価は昨年度より低下している。 	C	<ul style="list-style-type: none"> イワッツミッションについては引き続き地域との連携を進めながら活動を展開する。 1 年時のジオパーク学習と 2 年時のイワッツミッションの関連性をより明確にする。
4 自己肯定感の伸長	教育環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> 生活満足度調査では自己肯定感の低い生徒が多い。 生活満足度調査で「学校に行きたくない」としばしば感じている生徒が全校で 10%強存在する。 岩美高版 UD 等チェックリストを作成し効果的な指導・支援に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> UD を意識して教育活動を展開する教職員の割合が 70%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒観察、個人面談や個別学習指導、保護者や関係機関との連携等に努め、個に応じたサポートを実施する。 生徒の自己理解、他者理解を促す取り組みを実施する。 生徒の自己肯定感を高めるための取り組みのヒント等を教職員向けに情報発信する。 岩美高版 UD チェックリストを用い、教職員各自が取組を振り返ったり改善を工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活満足度アンケート(5月)でしばしば学校に行きたくないときがある生徒が 11.2%、周りの目が気になって不安や緊張を覚えることがしばしばある生徒が 9.6%いる。 毎朝の健康観察を実施し、心の健康問題や感染症の早期発見、早期対応に努めた。 QU結果検討会を行い、学級経営、個別支援について研修。 「発達障害といじめ事案について」をテーマに鳥取法務少年支援センターから講師を招き研修を実施。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己肯定感を高めるための講演会を 11 月に実施予定。
5 地域と連携した学校づくり	岩美町との効果的な連携	<ul style="list-style-type: none"> ジオパーク学習、イワッツミッション、インターンシップなどで岩美町と連携した取組を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携、地域貢献の取り組みを通して、生徒が、自らが居住する地域を支える存在であることを自覚する。 	<ul style="list-style-type: none"> 岩美町地域連携コーディネーターとの効果的な連携。 イワッツミッションについて講師、担当教員との協議を重ね、活動内容を充実させると同時に授業時間を確保する。 ホームページ掲載、報道機関への情報提供など情報発信につとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(7月)において、「地域と連携した活動にも取り組み地域に貢献したいと思う」生徒が 81.3%(前年比+4.8)。また、「地域と連携し、地域に貢献する活動が生徒の人間力育成に効果を上げている」と考える保護者が 90.3%、職員が 80.8%であり、活動に対し概ね理解が得られていると言える。 地域連携コーディネーターとも密に連絡を取り、活動を進めている。 イワッツミッション、ジオパーク学習ともメディアを通じて情報発信ができています。 	B	<ul style="list-style-type: none"> イワッツミッションについては引き続き地域との連携を進めながら活動を展開する。 1 年時のジオパーク学習と 2 年時のイワッツミッションの関連性をより明確にする。
	授業・部活動等を通じた地域連携の実施	<ul style="list-style-type: none"> 体育・福祉の授業や部活動単位で地域との交流を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加した生徒の自己有用感が向上し、人間的に成長する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員に過重な負担がかからないように配慮しながら、可能な限り地域の要請に応える。 	<ul style="list-style-type: none"> イワッツミッション実施にあたり統一テーマを設定するなど従来とは異なる手法での展開を実施。 地歴、体育、農業、福祉の授業、陸上競技部、野球部、ソフトボール部、茶道部、吹奏楽部が地域と連携した取組を実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 手話部が 10 月、12 月に地域の手話サークルとの交流を予定。

評価基準 A：十分達成 [100%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]